

北の縄文文化回廊  
づくりに向けた活動



# 通 信

第 6 号



目次 はじめに 平成15年度活動内容 学習…2・7 参加・協力…3  
イベント…4・5 ワークショップ・フォーラム…6  
情報コーナー…8

## はじめに

15年度はクラブにとって新しい出発の年になりました。昨年の火災によって焼失したアンギン編み機を新たに作り直したり、アケ抜きをしてドングリの粉をひいて縄文クッキーを作ったり、アカソの繊維から糸を紡いだりと、新しい活動を行いました。会員のみなさまの暖かいご声援、ご協力によって新たな一歩を踏み出すことができ、役員一同、感謝しております。今後もより一層、創意工夫した活動を図っていきたいと思います。

以下、15年度の活動内容の報告になります。

## 平成15年度 活動内容

学 習	アンギン編み機作成、ドングリのクッキーづくり アカソの糸づくり、アンギン編み講習
イ ベ ント	縄文土器づくり大会、野焼き
参加・協力	こども人類学会、三内丸山お月見縄文祭 縄文ボランティアワークショップ 北の縄文文化フォーラム

### アンギン編み機作成

今年の事業は昨年の火災で焼失してしまったアンギン編み機を作成することから始まりました。あまりコストをかけず編み機を作成するというので、役員各自のアイデアによってさまざまなデザインの編み機を作り、持ち寄って最終的なデザインを決めました。保管スペースをとらないような折りたたむことができるデザインを優先して選び、設計図を作りました。

材料ではケタの部分に使うものは、たて糸をとおす溝を等間隔に入れるため、柔らかい木を使い、また脚部は重さに耐えられるように堅いラワン材を使用しました。各部材の長さ・厚さの規格を統一したおかげで余り予算をかけずに、各部の材料を用意することができました。

当日は22名が参加し、慣れない手作業に四苦八苦しながらも、設計図を頼りに22台の編み機が出来上がりました。一人一人が自分の手で編み機を作成することで、再出発に向けて気持ちが一つになり、また、新たな第一歩を記す活動となりました。

この活動は来年も実施して、台数が十分揃うようにしたいと考えています。



みんな、夢中で作っています

## こども人類学会

昨年(2019年)の8月9・10日、伊達市でこども人類学会が開催されました。この事業は、人類学や考古学をテーマにした研究発表をとおして、こどもたちが地域文化への興味や誇りを持つことと、縄文文化の普及活動を行っているボランティア団体の地域間交流を目的として開催されました。また、北海道と青森県の交流事業の一環でもあることから、両道県から小学生8組、縄文文化を普及しているボランティア団体7団体、合計約100名が参加しました。

1日目は交流を中心に、北黄金貝塚公園の見学、体験学習会、ボランティア団体の縄文文化交流会が企画されました。あいにくの雨模様でしたが、貝塚情報センターで出土した遺物などを見学し、勾玉づくりを体験しました。展示解説と体験の指導をしてくれたのは、「オコンシベの会」の皆さんたちで、とても丁寧に解説・指導頂いただけでなく、勾玉づくりのノウハウや準備段階での注意点などの情報も得ることができました。

これに引き続いて行われた縄文文化交流会では、三内丸山応援隊(青森市)、縄文是川応援隊(八戸市)、噴火湾考古学研究会・オコンシベの会(伊達市)、アブタフレナイの会(虻田町)、石狩縄文クラブ(石狩市)が出席し、これまでの活動内容と今後の課題について発表・意見交換しました。意見交換では、多くの団体がNPOを視野に入れて活動を模索しているとの印象を強く受け、既に三内丸山応援隊がNPO(縄文発信の会)と連携して活動を始めており、また、それについての事例報告もあり、今後の活動を考えるうえで参考となる貴重な機会となりました。

また、2日目のこども人類学会では8組の小学生が発表し、「縄文時代の人たちはどんな生活をしていたか?」、「ヒトとサルはどう違うの?」など大人顔負けの内容、生き生きとした発表ぶりに、聴衆から驚きや賛嘆の声がもれることもしばしばでした。今回は大人とこどもが一緒になって楽しめたイベントであると同時に、刺激を受けた2日間でした。



勾玉づくりに挑戦



縄文文化交流会



すばらしい発表でした





さあ、土器づくりのはじまりです



完成間近、力が入ります



私は貝殻で文様をつけます

## 「縄文月間推進4遺跡連絡会議」

### 第6回縄文土器づくり大会・野焼き

9月5日、南茅部町福祉センター（講堂）で縄文土器づくり大会を実施しました。この活動は北海道と北東北3県が推進している「北の縄文文化回廊づくり」に先駆けて、民間団体の連携を図るイベントとして開催しました。

今回は100名を募集しましたが、当日は約120名が参加しました。

参加者のなかには、毎年参加されている方、遠くから楽しみに足を運ばれる方、家族で訪れる方、初めて参加する方もおり、賑やかな大会となりました。

まず、葉っぱを敷き、底を作り思い思いのイメージで一段一段粘土ひもを積み上げます。それぞれの縄文土器のイメージでどんどん作っていきます。今回は円筒土器そっくりな常連の方の作品に注目が集まりました。

会場ではスタッフの女性陣も縄文服を着て、各テーブルに分かれて指導をしました。スタッフと参加者、また、参加者同士の触れ合いや交流が自然とできるのも、この大会のいいところだと思います。また、この雰囲気誘われて来年も参加したいと話してくれた方もいました。

今後はさらに内容や企画を工夫し、また親しみやすい雰囲気作りをし、たくさんの方に縄文文化を楽しく体験してもらえようスタッフ一同がんばっていきたくと、再認識した一日でした。

### 野焼き

9月21日、垣ノ島A遺跡で野焼きを行いました。天気は快晴で風もほとんどない最高の野焼き日和で、49名が参加者しました。

2日前には大雨が降り、野焼きのレーンも水浸しになり、土砂がレーンの中にたまっていました。雨がやんでからスタッフ総出で水と土をかき出しました。思った以上に大変な作業でしたが、苦勞の甲斐あって何とか野焼きのできる状態に持ち直すことができました。

当日はスタッフと参加者が連携して土器を並べ、薪を運びスムーズに準備は進んでいきました。



覆面姿で野焼き

いよいよ火入れの瞬間。薪が雨で湿っていたため、最初火力が弱かったのですが、天候に恵まれたおかげか徐々に炎は大きくなりました。安全のため前もって準備していた30個以上のバケツに水を張り、消防の方にも来てもらいました。

いったん燃え出すと、あとはやけどに気を付けて、土器を回転させながらまんべんなく乾燥させ、レーンの中の地面もすっかり乾燥したら、徐々に下におろしていき、本焼きへと移ります。

本焼きでは、真っ赤な炎の中でゆらめきながら焼き上がる土器を目にすると自然と感動がわき上がります。また、作品の焼き上がりを待つ間、レーンの一角を使って恒例になっているジャガイモの塩焼きやトウモロコシなどを味わいました。炎や煙と格闘した後ではこの楽しみも、また格別です。参加者は自分の焼き上がった作品を手に、来年もまた楽しく安全に野焼きが成功するようにと願ったことでしょう。



すばらしい出来映えにみんな満足

## 民間団体との連携

今回の縄文土器づくり大会は「北の縄文文化回廊づくり」に先駆けて、民間団体で北東北3県（青森・秋田・岩手）との連携を図る「縄文月間推進4遺跡連絡会議」のイベント事業の一つとして、開催しました。

事務局はNPO法人三内丸山縄文発信の会（青森県）で、参加団体は北の縄文CLUB（北海道）、御所野遺跡を支える会（岩手県）、大湯ストーンサークル万座の会（秋田県）です。今年は8月30日から9月23日までの土・日・祝日で各団体がイベントを行いました。これまで各地で独自に行っていたイベントを連携して進めることで、今後さらに北東北3県との関係はさらに深まることと思います。

新年度は道内の団体とのネットワークづくり、北東北3県との連携を推進し、縄文文化をテーマとした地域の活性化をさらに目指していきたいと思ひます。

## 縄文ボランティア・ワークショップ

1月30日に南茅部町民保養センターで、渡島支庁主催の「縄文ボランティア・ワークショップ」が開催されました。この事業は、北海道と東北三県（青森・秋田・岩手）で進めている「北の縄文文化回廊」の関連で、縄文文化を活用して地域づくりを進めるため、市民と行政がどう協力するかNPO活動をとおして考えるものです。道内は伊達市、恵庭市、虻田町、道外は青森県、秋田県、岩手県から、縄文文化をテーマに活動しているボランティア団体など約50名が参加しました。



活発な議論が交わされました

基調講演では岩手県立大学の山田教授が、地域が豊かになる地域づくりを目指すうえでNPOの役割は大きく、NPOと自治体の協働体制づくりが重要であると述べられました。これに続いて、山梨県須玉町のNPO法人文化資源活用協会は具体的な活動内容について、NPO法人北海道NPOサポートセンターは、設立に要する具体的な事務手続きについて説明されました。全体討議では、当クラブの川井副会長が、NPO法人化の必要性を発表しました。また、他の参加団体からも、NPO法人化に向けた課題、手続きや運営方法などについて、活発な議論が交わされました。NPO活動について、具体的な説明が多く非常に参考となっただけでなく、今後の活動を真剣に見つめ直す良い機会となりました。

## 北の縄文文化フォーラム

「北の縄文文化フォーラム」(北海道、渡島支庁主催)が1月31日、函館国際ホテルで開催され、当クラブのメンバー36名を含む約800人が参加しました。このフォーラムは、北海道が進める「北の縄文文化推進事業」の一環で、日本文化研究の第一人者で国際日本文化研究センター顧問の梅原猛先生による講演が行われました。講演では、縄文人とアイヌ民族の精神文化の共通性を挙げながら、日本文化の基層に縄文の精神が流れており、縄文文化はアイヌ文化を抜きにして語れないという梅原先生の持論が展開され、興味の尽きない内容でした。



梅原猛先生の講演のようす

続いて、国立民族学博物館名誉教授の佐々木高明先生、伊達市教育委員会文化財課長の島直行先生が加わり、「縄文文化が語りかけるもの」というテーマで鼎談が行われました。各先生方は、三内丸山遺跡の例を挙げながら、縄文文化は定着的な生活があったことや食料も豊であったことを話されました。また、13世紀当時のアイヌ民族は、北アジアにおける交易民族でたいへん国際性があったことなどを話され、北海道の文化を考えるうえで、もう一度評価すべきだと力説しました。

フォーラムは3時間にわたり行われましたが、講演や鼎談をとおし、私たちの祖先のすばらしい精神文化が現代に受け継がれていることを学ぶことができました。



## アカソの糸づくり

11月20日に行われたアカソの糸づくりには、小学生2名を含む18名が参加しました。縄文時代の遺跡から出土している編布や糸は、カラムシやアカソ、オヒヨウなどの植物繊維が使われていると鑑定されていることから、実際に植物の繊維から糸を作ってみようと挑戦してみました。

糸づくりに使う植物は、北海道でも自生しているアカソの繊維を使うことにしました。アカソの刈り取りは、スタッフが遺跡の発掘に従事しているため、一ヶ月くらい前からお昼休みを利用して刈り取り、乾燥するという工程を何度も繰り返し、糸づくりの準備を行いました。

当日は、乾燥させたアカソを木槌などで叩き、1時間ほどで繊維を取り出すことが出来ました。その後に糸を紡いでいく工程では、これまでの薄紙を撚るのとは勝手が違い、皆さん大変な様子でしたが、糸づくりをとおして、自然と共生しながら培われた縄文人の高い技術を体験することが出来ました。



きれいな繊維が取れました



ちょっと太いけど、こんな感じかな？

## ドングリのクッキーづくり

青森県三内丸山遺跡や岩手県御所野遺跡から、当時食べられていたと思われるドングリを使ったクッキー状の炭化物が出土しています。アク抜きが難しいと言われるドングリなどの木の实を使った食文化は、現在も東北地方などの一部で传承されています。

そこで、縄文時代のドングリのアク抜きがどのように行われていたか、講座に向けて実験を行いました。拾い集めたコナラの実を5kgほど用意し、アク抜きは生のドングリを一週間乾燥させた後に皮をむき、何度も煮て水を替える方法と、生のドングリを水につけた後に皮をむき、細かく砕いて粉にして水にさらす2種類の方法で行いました。結果は、煮る方法では1ヶ月ほどの日数を要し、粉にして水にさらす方法では、3日ほどでアクが抜けることが分かりました。

10月25日に行われた講座には、家族で参加した方や長野県や石狩市から駆けつけた方もおり、28名が集いました。この日のアク抜きは粉にして水にさらす方法で行いました。ドングリを石皿の上で潰す場面では、ドングリがはじけて逃げてしまうなど苦戦しましたが、笑い声が飛び交う中、楽しくアク抜きの工程を終えることが出来ました。その後は、市販のドングリの粉を使ったクッキーを石の上で焼いて、伝統の味を楽しみました。



ドングリ ころころ…

## 情報コーナー

### 遺跡発掘

#### ○ 垣ノ島A遺跡調査終了

今年で垣ノ島A遺跡の調査が終了しました。今まで赤ちゃんの足形の付いた土版や赤漆が塗られた注口土器など、様々な発見のあった遺跡ですが、4年を経て調査が終了となりました。

#### ○ 垣ノ島A遺跡試掘調査で国内最大級の盛土遺構発見

今年行われた垣ノ島A遺跡の試掘調査で盛土遺構が見つかりました。国内最大級のものであるという研究者の声があり、今後の調査に期待がかかります。

#### ○ 森町のストーン・サークル

昨年森町教育委員会が調査を行い、大規模なストーン・サークルが見つかりました。保存状態も良好で国史跡クラスと話す研究者もいます。ストーン・サークルは高速道路の建設予定地に位置しており、破壊される危機に直面しています。現在北海道考古学会や民間の団体がストーン・サークル保存のための署名活動などを行っています。森町民によるストーン・サークルの保存活動が活発化し、4月11日には『文化資源としてのストーン・サークルー北海道鷲ノ木5遺跡ー』と題して森町公民館で講演会が行われました。中心となった団体は「森鷲ノ木ストーン・サークル研究会」（代表 夏坂幸彦氏）です。これからこのストーン・サークルの重要性を知ってもらいながら、保存活動を行っていく同会を北の縄文CLUBはバックアップしていこうと考えています。

### 図書紹介

#### ○ 苅谷俊介さんの『土と役者と考古学』山と溪谷社 ¥1,575(税込) 発売中

俳優でありながら、いまや考古学の世界でも広く存在を知られる苅谷俊介さん。初めて発掘現場を見たときの感動や、石原裕次郎邸建築の際に出土した土器との運命的な出会いを通して古代史への思いを綴っています。南茅部での遺跡をとおしての交流も書かれています。

2004年3月31日

第6号発行

発行 北の縄文CLUB

連絡先 北海道茅部郡南茅部町字白尻604-1  
南茅部町埋蔵文化財調査団内

TEL 01372-2-5510

FAX 01372-2-5606

メールアドレス

joumon-c@alto.ocn.ne.jp